

H17管理水準					H25登山道現況調査	
地域	区間 No.	登山道区間	保護・利用体験	保全対策	路線 No.	10年前のガイドブックの記述
北大雪地域	1	層雲峡～朝陽山	B	Ⅱ	(2)	-
	2	ニセイカウシュッペ山～公園界	B	Ⅲ	(2)	訪れる人の少ない静かな山。清川コースに変わり、楽な中越コースが使えるようになった。
	3	層雲峡銀河流星ノ滝線	C	Ⅲ	(4)	-
	4	紅葉谷線	C	Ⅲ	(5)	-
表大雪地域	5	層雲峡～(ロープウェイ終点)～黒岳	B	Ⅱ	(3)	ほとんどの登山者は7合目からのスタートである。
	6	黒岳～北海岳～間宮岳～旭岳	B	Ⅱ	(3)	-
	7	黒岳石室～雲ノ平～中岳分岐	B	Ⅱ	(3)	一本道なので迷う心配はない。日帰り縦走気分が味わえる。
	8	旭岳～勇駒別	B	Ⅱ	(3)	大雪山で最も人気のある山の一つだが、裸山ゆえに下山時の道迷い遭難が非常に多い怖い山でもある。快晴時には初級だが、視界不良時のルートファインディングの難しさを配慮し中級。
	9	姿見の池周回線	C	Ⅲ	(3)	石室から先は登山コースで、ハイカーはここで戻ることになる。
	10	愛山溪～雲井ヶ原	B	Ⅱ	(6)	本格的な登山の足慣らしに訪れるのもよい。
	11	愛山溪～松山園～沼ノ平分岐	B	Ⅱ	(8)	登山道の整備の面が今一つであるのが難点。
	12	沼ノ平分岐～比布岳～北鎮岳～お鉢平分岐	B	Ⅲ	(7)	(滝ノ上分岐上) 泥道になって滑りやすく大いに苦勞させられる。
	13	愛山溪～沼ノ平分岐	B	Ⅰ	(7)	-
	14	沼ノ平分岐～裾合平分岐	B	Ⅰ	(9)	紅葉の季節には大勢のハイカーが訪れている。(半月湖) 木道が敷かれているが、一部は沼側に傾斜し、秋霜で滑って沼に落ちる恐怖を味わうことができる。特定の山を目指すためのコースではないが、山と山を結ぶ連絡路としての役割が大きい。
	15	裾合平分岐～姿見の池	B	Ⅰ	(9)	-
	16	当麻乗越～比布岳分岐(安足間岳)	B	Ⅲ	(10)	-
	17	間宮岳～中岳分岐～(中岳温泉)～裾合平分岐	B	Ⅰ	(3)(11)	(間宮岳～中岳分岐) 雨水による侵食がひどく、登山道は深い溝となっている部分が多い。(裾合平) 今は立派な木道を軽快な足取りで歩くことができる。
	18	勇駒別周回	C	Ⅲ	(18)	-
	19	天人峡～勇駒別	B	Ⅱ	(19)	縦走登山を終え、スタート地点に戻ることに有効だが、ハイキングを目的に歩いても楽しめる。
	20	天人峡～羽衣の滝・敷島の滝	C	Ⅲ	(20)	-
高根ヶ原地域	21	北海岳～白雲岳避難小屋	A	Ⅱ	(12)	大雪山らしい雄大な尾根歩きを楽しむことができる。
	22	白雲岳避難小屋～高根ヶ原分岐～忠別岳	A	Ⅱ	(12)	広大な尾根上の縦走路。(忠別沼) 地塘のほとりにほとりに木道が整備され、昔日の苦勞がうそのようだ。
	23	銀泉台～赤岳～小泉岳～白雲岳	A	Ⅱ	(13)	(赤岳) 3時間足らずで登れる気軽なコース。週末には大勢の登山者でにぎわう。(コマクサ平核心部) 一時期は盗掘のため数が激減したが、現在はかなり回復している。
	24	高原温泉～緑岳～小泉岳	A	Ⅱ	(14)	高原温泉から日帰り圏の山だが、縦走の途上、白雲岳避難小屋から往復する登山者も多い。
	25	高原温泉(沼巡りコース)～高根ヶ原分岐	B	Ⅰ	(15)	紅葉シーズンには大勢の観光客が押しかけている。自然度の高い一帯はヒグマの保護観察地域となっており、しばしば通行禁止となる。コースは整備されているとはいえ、全般にぬかるみなどの湿った箇所が多く、ゴム長が断然有利である。

H17管理水準					H25登山道現況調査	
地域	区間No.	登山道区間	保護・利用体験	保全対策	路線No.	10年前のガイドブックの記述
トムラウシ山系地域	26	忠別岳～五色岳～化雲岳～トムラウシ山	A	Ⅱ	(12)	(五色岳) 低木ブッシュに悩まされる。朝露でビショリとなり、雨具着用で登る表大雪らしからぬ場所。
	27	トムラウシ山～オプタテシケ山	A	Ⅱ	(12)	(巨岩帯、ロックガーデン) 道を見失わないように慎重に足を運びたい。
	28	沼ノ原口～沼ノ原～五色ヶ原～五色岳	B	Ⅰ	(17)	層雲峡から簡単に登山口まで入ることができる。湿原の花目当ての日帰り登山者も多いが、五色ヶ原やトムラウシ山への縦走する人も少ない。
	29	天人峡～化雲岳	A	Ⅱ	(21)	縦走登山の途上。
	30	トムラウシ温泉～トムラウシ山	A	Ⅱ	(37)	健脚者なら日帰り登山が可能。南沼へ至る道の途中から頂上を目指す見苦しい踏み跡が幾筋もある。 (トムラウシ山への登山者の大部分は、短縮コースを利用)
	31	ヌプトムラウシ温泉～沼ノ原分岐	A	Ⅱ	(40) (29)	訪れる人の少ない静かなコースであるが、笹刈り等の整備はよくされているようだ。
	32	トムラウシ温泉周回	C	Ⅲ	(38)	-
十勝岳地域	33	オプタテシケ山～美瑛岳～十勝岳	A	Ⅱ	(12)	十勝岳から美瑛岳中間、鋸岳間は、かすかに踏み跡がある程度。踏み跡が幾筋もついている。
	34	十勝岳～富良野岳	B	Ⅰ	(12)	(富良野岳) 比較的楽な登山で、高山の雰囲気と高山植物が楽しめるため、家族連れにも人気がある。珍しい高山植物があるが、近年は激減している。
	35	富良野岳～登山口	A	Ⅱ	(12)	湿原も1300mあたりで切れ、疎林の笹原へ入る。刈り払いされていなければ、ブッシュ漕ぎ動揺となることもある。
	36	白金温泉口～美瑛富士 〔美瑛富士小屋分岐〕	B	Ⅱ	(22)	登山口からしばらくは作業道跡。路面には雨裂が走り、林道とは打って変わる荒れよう。
	37	白金温泉～望岳台～十勝岳	B	Ⅱ	(23)	踏み跡も不明りよつなので、岩に塗られたペンキ標識を見失わないよう注意。上部は火山灰の世界。周囲が見えないときはどこを歩いているか分からなくなる恐れがあり、十分注意したい場所。
	38	望岳台～吹上温泉～十勝岳温泉	C	Ⅲ	(24)	望岳台を起点に十勝岳の山腹、山麓をめぐる散策路として高山植物や山岳展望森林浴も楽しめるという点で魅力。
	39	十勝岳避難小屋～美瑛岳・美瑛富士分岐	B	Ⅱ	(25)	-
	40	吹上温泉～三段山～十勝岳温泉	C	Ⅲ	(26)	本コースは1994年に落石による死に事故があった。特に雨後の落石には十分注意したい。山スキーコース。取材時は笹 被りがひどかった。
	41	十勝岳温泉 ～縦走路分岐(富良野岳) ～縦走路分岐(上ホロカメットク山)	B	Ⅱ	(27)	安政火口までは一般観光客と共に広く整備された道を歩く。観光客はこの噴気孔を見て引き返す。
	42	登山口～十勝岳	B	Ⅱ	(39)	下部の登山道はよく整備されている。 (雪田跡のお花畑) 二万五千分の一地形図の歩道はこの手前で左手の沢に降りているので、間違わないように。
43	縦走路分岐～原始ヶ原 (五反沼・勝竜の滝)	B	Ⅱ	(1)	二つのコースを結んで湿原散歩を楽しんでいるグループも見られる。滝コースはわりと整備され、変化に富んでいて楽しい。	

H17管理水準					H25登山道現況調査	
地域	区間No.	登山道区間	保護・利用体験	保全対策	路線No.	10年前のガイドブックの記述
東大雪地域	44	登山口～ユニ石狩岳	B	Ⅱ	(16)	昔日の面影薄い荒れた登山道。
	45	十勝三股口～十石峠(ユニ石狩岳)	B	Ⅱ	(29)	最近の日帰り可能で手ごろな山として随分登られている。作業道跡は歩きやすいが笹刈りなどの整備は数年に一度程度。
	46	十石峠～音更山～石狩の肩	B	Ⅱ	(29)	展望魅力のが手ごろな縦走コース。
	47	シュナイダーロ～石狩岳～沼ノ原手前分岐	A	Ⅱ	(29)	急峻なシュナイダーコースのみが日帰り登山に利用され、あとは縦走形式でなければ頂を踏むことができない奥深い山。根曲り竹密生する大雪山の原始境。コース整備はほとんどされていなかったが、2001年秋に大規模な再開削作業が行われて縦走登山が楽になった。
	48	杉の沢出合～前天狗岳	B	Ⅱ	(28)	キャンプ地として登山口付近を利用する人が多く、周辺環境汚染がひどかったが、簡易トイレが設置。
	49	幌加温泉～天狗岳～ニペソツ山	B	Ⅱ	(28)	針葉樹林に囲まれた静かなたすまいは、杉沢コースにはない魅力である。この付近の歩道は、二万五千分の一の地形図には全く違うところに記されている。
	50	糠平登山口～ウペササンケ山	B	Ⅱ	(30)	「ウペササンケ山」の標識があるのは東端と西端のピーク。
	51	菅野温泉登山口～コース分岐	B	Ⅱ	(32)	-
糠平然別地域	52	糠平天宝山	C	Ⅲ	(31)	二万五千分の一地形図の歩道記号は、全く違う場所に記されている。
	53	然別湖～南ペトウトル山	B	Ⅱ	(33)	比較的最近開削されたコースで、しっかりと落ち着くまでもう少し時間がかかりそう。
	54	天望山周回	B	Ⅱ	(34)	人の気配の少ない淋しい道。
	55	駒止湖～東ヌブカウシヌプリ	B	Ⅱ	(35)	-
	56	西ヌブカウシヌプリ	C	Ⅲ	(36)	登山道はカラマツの中に一直線に延びているが、笹が生い茂って地面が見えない。
H17管理水準対象外	-	北海道自然歩道線	-	-	(41)	-
	-	桂月岳コース	-	-	(42)	黒岳登山のついでや、小屋泊りの人の散策に手ごろ。
	-	愛別岳コース	-	-	(43)	訪れる登山者も少なく、眺めて楽しむ山として存在感が高い。
	-	菅野温泉西コース	-	-	(44)	-
	-	滝コース	-	-	(45)	【区間43・路線(1)を参照】
	-	三川台コース	-	-	(46)	近年遭難救助用の避難路が刈り払いされ、三川台への旧道も整備された。標識などは一切なく、刈り払いも定期的に行われているわけではない。高山植物の盗掘が目立ってきている。
	-	トムラウシ短縮コース	-	-	(47)	【区間30・路線(37)を参照】